

榴岡地区 社協だより

第 18 号

(2020 年 3 月 25 日)

榴岡地区社会福祉協議会

発行責任者 末永 榮六

身に危険を感じた体験



榴岡地区社会福祉協議会

会長 末永 榮六

日ごろ、地域の皆様方には榴岡地区社会福祉協議会の活動に
対してのご支援、ご協力を心から感謝申し上げます。

昨年十月、関東に上陸した台風により各地で大きな災害に見
舞われました。被災された方々に心からお見舞い申しあげます。
被災者の様子をテレビで見えていて、落ち着いて行動し難を逃れ
たと言う場面がありました。それを見て「Kさん」の言葉を思い
出しました。

私は、若い時から休日には趣味で泉ヶ岳近辺の山々で、山菜やキノコ採りに行っていました。ある時(昭和五十年代後半頃)Kさんに誘われて北泉ヶ岳に舞茸採りにでかけました。大和町の升沢から地元の方二人と合流し四人で泉ヶ岳北側の桑沼から山に入りました。いつの間にか地元の二人とはぐれ、私とKさんはブナの大木が生える竹林にまぎれ込んでいたのです。登山口に戻ろうと言うことになり、沢にたどり着き沢を覗いて驚きました。

そこは崖地でした。仕方なく斜面を再び登って帰ることになりました。その時のKさんの言動は今でも脳裏に焼き付いています。その一つは、「昼食には早いが持ってきたおにぎりを半分食べよう」。二つ目は「俺が先頭に立って登るから決して離れるな、そして声を出し、音を出して斜面を登ろう」でした。気合を入れて二時間ほど登り、峰近くになり地元の方の「オーイ！オーイ！」の声が微かに聞こえました。十月初旬の山、薄暗い中無事下山しました。

このときの窮地からの脱出は、先輩「Kさん」のリーダーシップ、判断力の賜物と感謝しています。このことは、阪神淡路大震災での支援、東日本大震災での避難所運営並びに町内会等の様々な対応、行動に役立ったのかなと改めて思い返されました。

「仙台ローズガーデン」移動研修会

7月22日、梅雨特有の生憎な空模様の中、北中山にある「仙台ローズガーデン」の施設を見学に行きました。障害のある方も作業を通じて、経済的、社会的に自立ができるように支援している施設との説明を受け、施設内を案内して頂きました。温室ではバラやガーベラまた鉢物を育てて販売していました。私達も少しでも支援になればと切花や鉢物を購入しました。ガーベラの花言葉は「希望」、真っ赤なガーベラは「いつも前向き」働いている方の笑顔を思い出し帰路につきました。(山口)



お茶っこサロン

「お茶っこサロン」に参加して

佐藤 喜久子

「お茶っこサロン」は参加の皆さんと楽しく、心と心を結ぶ場所です。

お茶を飲みながら季節の歌を歌い、また指先を動かしての「折紙」や「ハーバリウム」と物づくりも魅力です。

担当の皆様が席を回り和気藹々の雰囲気、笑い声が絶えることがなく続きます。参加者が楽しむ内容を日々追求されていることに、感謝の気持ちでいっぱいです。

サロンに参加できる幸せを、多くの皆様も是非実感して頂ければと願っています。

「お茶っこサロン」

開催日時

(10時～12時)

● 榴岡市民センター

偶数月 第1金曜日

● 駅東交流センター

奇数月 第2金曜日

● 宮城野市宮住宅

5月、8月、11月、2月の
第4金曜日

ふれあいいきいきサロン

平成から令和へ、
伝えていきたい「福祉のまちづくりの心」



仙台市立榴岡小学校
校長 猪股 亮文

毎年、恒例行事となっております本校一年生と高齢者との「ふれあいいきいきサロン」の開催に際しまして、榴岡地区社会福祉協議会の皆様から、多大なるお力添えを賜っておりますことに感謝の気持ちでいっぱいであり、誠にありがとうございます。

さて、私たちが暮らすまち榴岡では、先人の方々がまちの歴史や文化等を大切にすることを通して、互いの絆を深めるとともに、「まちを愛する心」や「共助の心」も受け継いでこられました。まさに、榴岡は、古くから「誰もが安心して暮らすことのできるまちづくり」に取り組んできた「福祉のまち」と言うてよいのではないのでしょうか。

一方、我が国の「地域」の現状に目を向けると、人々のライフスタイルが大きく変化し、人

間関係の希薄化が加速し、「地域」が有していた福祉機能が低下するなか、福祉に関して多様な複雑化するニーズ等に対して、行政だけでは対応しきれない現実がみられるようになっております。そして、こうした現状を懸念し、「地域」での住民による福祉活動の重要性が一層増してきているとの指摘が多く聞かれるようになってきました。翻って、私たちのまち榴岡にあつては、「まちを愛する心」や「共助の心」を大切にしながら地区社会福祉協議会の皆様方が高齢者の見守り活動などを継続して行うなど、住民による「地域」のコミュニティづくり、「福祉のまちづくりの要」となつて活躍されていらっしゃいます。

榴岡のこれからを担う子供たちは、「まちを愛する心」や「共助の心」の大切さを感じ取っております。今後も、次の世代へ伝えていくよう、私どもも、地区社会福祉協議会の皆様方と共に、子供たちへの指導と支援力を尽くしてまいりたいと存じます。



上から

- ・皆でタオルを廻せ
- ・クラス対抗玉入れ
- ・笑顔で見送り



ハーバリウム作り 瓶に花を入れるのに必死です！



ハーバリウム完成 “私のが一番!! 笑顔もね”



「ふぁるまプリエ」様ご紹介の(株)ユースキンによる
“うるおいたっぷり ハンドケア～”



今回は山下氏お一人でした。おしゃべりも楽しく
いつも懐かしい昭和の歌や童謡を皆で歌います。



参加者の“ALL SMILE”引き出した榴岡の
エンターテイナー「ボンクラーズ」(児童館職員)



今年で3回目つきたてお餅を食べて人生長もち(餅)



今日は“脳トレ”全員完璧これから心身共に健康第一！



“おもちゃインストラクターマミーさん”の手作りおもちゃ
に夢中! 童心に返ったひとときでした。

げんき福岡



毎月、第三金曜日に駅東交流センターで開催しています。運動サポーターが中心になり、脳トレ・ストレッチ・筋トレ等を行います。交流の場として、ゲームなどレクリエーションの時間も設けています。

また、包括支援センターやインストラクターをお迎えし、ご指導いただき参加者の皆さんが、楽しく充実した時間を過ごしていただく工夫もしています。皆さんの笑顔から健康維持・介護予防の意義を感じています。どうぞ「げんき福岡」にお出かけ下さい。

(吉田)

『ふれあい訪問』 いざ出発!!

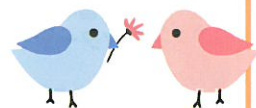


◀訪問に笑顔で受取って
頂きました。

この時期としては珍しく穏やかで暖かい12月11日福岡地区の日赤奉仕団と社会福祉協議会の共催で行っている「ふれあい訪問」を実施しました。573名の対象者に心ばかりのお菓子の詰合せをお渡しし、日頃の健康維持や介護予防などに努力されているという、暮らしづくりなどを伺うことができました。また、日常生活での知恵袋を伝授され、私達が元気をいただきました。「ふれあい訪問」は地域の皆様とのふれあいの機会、また見守り活動の一環として大切と考え、更に充実した活動を推進してまいります。

(領岸)

ふれあい訪問



編集後記

平成から令和へ改元され、第十八号の「社協だより」を発行の運びとなりました。ご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。文字数が限られている中、福岡社協の活動を皆様に知って頂けるよう、カメラを手に委員一同取り組みました。感想などお聞かせいただければ幸いです。

(星)

末永 榮六・田中 朋子・吉田 多恵・小野 圭子・
安倍 由佳子・山口 博子・嶺岸 美恵子・星 洋子

ご協力ありがとうございました。
多くの皆様のご支援をお待ち
しております。

- (株) ユアテック 様
- 澁谷 宗勝 様
- (株) K・T 様
- (株) 力寿 司 様
- 関口 秀和 様

社福祉協議会会費
高額納入者
(五千円以上)